



3つの
花を咲か
せよう。

横代小だより

北九州市立横代小学校

校長 朝倉 謙吾

<教育目標> あかるく 正しく たくましく 未来にはばたけ

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

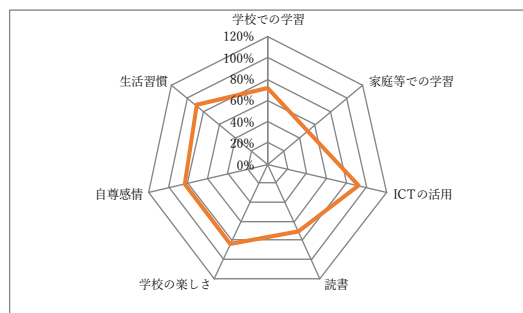
文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思ひます。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	・全体的には全国平均を下回っていたが、「読むこと」の問題の正答率は比較的高かった。 ・記述式の問題の正答率が低く、自分の経験をふまえた文章を書くことに課題がある。	下回っている
算数	・全体的には全国平均を下回っていたが、「数と計算」の正答率は比較的高かった。 ・示された作図の手順を基に、どんな形なのかに気付くなど、「図形」の領域の正答率が低かった。	下回っている
理科	・全体的には全国平均を下回っていたが、実験の経験を生かした問題についての正答率は、比較的高かった。 ・問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述する問題の正答率が低かった。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・授業中、PCやタブレットなどのICT機器を活用できたと感じた児童が全国の平均値よりも高い。
- ・学校の授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間になっていたと感じた児童の割合が高い。
- ・授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだと感じた児童の割合が高い。
- ・学校の授業以外の学習時間、家で自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合・読書が好きと感じた児童の割合がとても低い。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・今後も、全職員一丸となって、子どもたちに「わかる授業」をするための校内研修や教材研究を行っていく。
- ・ICTの効果的な活用をすることで、子どもたちが意欲的に授業に取り組むことができるようにする。
- ・読み聞かせや読書時間の確保を図り、読書に親しむ習慣を付けるようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・宿題の量や内容を発達段階に応じて出すことで、意欲をもって家庭学習に取り組むことができるようにする。
- ・現在取り組んでいる自主学習を継続させることで、授業での学びを深める学習が児童自ら選択できるようにし、学習意欲を高めるようにする。
- ・本校主題の「子どもつながりプログラム」を活用した特別活動の継続を図ることで、自分のよさや成長に気付くようにする。